

平成 30 年

Y 8 サミット創快横手市議会
会 議 録

自 平成 30 年 11 月 16 日

至 平成 30 年 11 月 16 日

Y 8 サミット創快横手市議会

平成30年Y8サミット創快横手市議会会議録目次

11月16日（金曜日）

○議事日程（第1号）	1
○会議に付した案件	1
○出席議員	1
○説明のため出席した者	2
○開　　会	3
・会議録署名議員の指名について	3
・会期の決定について	3
・報告第1号の上程、説明、質疑	3
○閉　　会	24
○署名議員	25

平成 30 年 11 月 16 日（金曜日）

（第 1 号）

平成30年Y8サミット創快横手市議会会議録

議事日程（第1号）

平成30年11月16日（金曜日）午後1時12分開会

- 第 1 会議録署名議員の指名について
- 第 2 会期の決定について
- 第 3 報告第1号 横手市中学校創快宣言に基づく取り組みの報告について

本日の会議に付した案件

議事日程第1号に同じ

出席議員（24名）

1 番	本 間 利 博	2 番	高 橋 和 樹
3 番	山 形 健 二	4 番	大日向 香 輝
5 番	青 山 豊	6 番	加 藤 勝 義
7 番	奥 山 豊 和	8 番	寿松木 孝
9 番	播 磨 博 一	10番	鈴 木 勝 雄
11番	立 身 万 千 子	12番	菅 原 亀 代 嗣
13番	菅 原 正 志	14番	齋 藤 光 司
15番	佐 藤 誠 洋	16番	高 橋 聖 悟
18番	塩 田 勉	19番	佐々木 喜 一
20番	遠 藤 忠 裕	21番	小 野 正 伸
22番	佐 藤 清 春	23番	佐 藤 忠 久
24番	土 田 百 合 子	26番	菅 原 恵 悦

欠席議員（1名）

17番 木 村 清 貴

説明のため出席した者（28名）

市	長	高橋	大	教	育	長	伊藤	孝俊
教育総務部長		栗田	律子	教育指導課課長代理		岡	固	敦
教育指導課主査		高橋	秀彰	教育指導課主査		一	関	大輔
横手南中学校		勝田	涼介	小原	拓夢	佐	藤	蒼太
		和	賀					
		和	賀					
横手北中学校		加賀	谷麻衣	高橋	勇晴	大	坂	美聡
増田中学校		関	凌星	佐々	木晟人	大	石	結子
平鹿中学校		藤	田真理子	大	島光春桜	師	岡	里佳
横手明峰中学校		丹	波楓子	菅	原零	太	田	春香
十文字中学校		小	川雅弘	菅	原楓太	笹	山	日菜子
横手清陵学院中学校		寺	田倭子	柏	谷真之介	菅	原	梨湖

事務局職員出席者

事務局	長	佐藤	雅義	主	幹	菊池	覚也
議事調査係	主査	小松	淳	議事調査係	副主査	菅原	義隆
総務係	主任	横井	希望				

◎開会及び開議の宣告

○齋藤光司 議長

皆さんこんにちは。ただいま紹介のありました横手市議会議長の齋藤光司です。Y8サミット創快横手市議会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。本日は、市内7中学校のY8サミットメンバーと学校代表生徒の皆さん、また傍聴席には教育関係の方々や保護者の皆さんをお迎えし、盛大にかつ厳粛に開催されますことを大変うれしく思います。5回目となる今回は、平成26年度の議会で採択された創快宣言に基づき、各校で取り組んできた活動をご報告いただき、その内容に対し議員から質問をいたします。議員の皆さんには、分かり易く丁寧な質問をお願いいたします。また当局側のY8サミットメンバーの中学生の皆さんには、議員の質問に対し答弁をお願いいたします。慣れない場で緊張する場面もあるかもしれませんが、どうか自信を持って答弁をして下さい。さて平成28年6月から選挙年齢が満18歳まで引き下げられております。中学生の皆さんには、これまで以上に政治への関心を高め、主権者としての自覚を持つことが必要であると思います。是非、市議会や市役所の仕事に関心を深めていただきますと共に、ふるさと横手市のこれからの発展にご協力くださるようお願いいたします。結びにY8サミット創快横手市議会が、実り多いものになりますようご期待し激励の挨拶といたします。

20番遠藤忠裕議員から遅刻する旨、17番木村清貴議員から欠席する旨の届け出があります。

ただ今から平成30年Y8サミット創快横手市議会を開会いたします。直ちに本日の会議を開きます。

◎会議録署名議員の指名について

○齋藤光司 議長

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は会議規則第81条の規定により16番高橋聖悟議員、18番塩田勉議員を指名いたします。

◎会期の決定について

○齋藤光司 議長

日程第2、会期の決定についてを議題といたします。お諮りいたします。Y8サミット創快横手市議会の会期は、本日1日といたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○齋藤光司 議長

ご異議なしと認めます。したがって会期は本日1日と決定をいたしました。

日程第3、報告第1号横手市中学校創快宣言に基づく取り組みの報告についてを議題といたします。最初に横手南中学校より報告を求めます。

◎取り組みの報告

◇横手南中学校（勝田涼介・小原拓夢・佐藤蒼太・和賀絢子）

○齋藤光司 議長

横手南中学校、勝田涼介さん。同じく小原拓夢さん。同じく佐藤蒼太さん。同じく和賀絢子さん。

○横手南中学校 勝田涼介

今年度、横手南中学校は山内中学校と統合し、南中新時代がスタートしました。統合を機に新南中宣言をリニューアルした「新南中宣言2018」を制定し、「認め合い」他を認め、一人一人がのびのびと個性を発揮できる南中生。「磨き合い」何事にも強い心で臨み、行動し、共に日々成長していく南中生。「つながり合い」関わりを大切に、笑顔で沢山の仲間や地域との交流の輪を広げる南中生、という3つの柱をもとに実践してきました。

そして、横手南中学校生徒会では「いじめのない快適な学校生活の創造」のための生徒会活動を推進し実践してきました。その活動実践内容を報告致します。

今年度の生徒会テーマは、『共進共躍~ New Start For Us~』です。このテーマは、校長先生が今年度のキーワードとして掲げた、校歌「ひとすじの道」にある「共に進まん」というキーワードと、もう一つのキーワード「4つのしん（新・信・進・深）」をもとに考えました。「新たな仲間と躍進し、共に新時代の南中を創り上げていこう」という想いが込められています。このテーマのもと、南中生が一丸となって学校生活を送っています。

○横手南中学校 和賀絢子

1つ目は、「認め合い」への取り組みです。いじめのない、さわやかな学校を創るために考えた取り組みとして「ふわふわの木を育てよう」というものです。これは、クラスの中で3人グループを作り、「葉っぱ」の形や「実」の形をしたふせんに友達1人の良いところを書きます。全校生徒分の付箋を「ふわふわの木」に貼って、全校生徒の良いところをいっぱいの木を作りました。これは月に一回作成し、大きく掲示しています。

2つ目は「感謝」への取り組みです。「1日5回ありがとうを言おう運動」、「帰りの会で、今日のキラリを発表しよう運動」「帰りの会で、全員ハイタッチをしよう運動」を月替わりで実施しています。この取り組みによってクラスの絆を深め、良好な人間関係を創りながら学校生活を送ることができています。

○横手南中学校 佐藤蒼太

3つ目は「あいさつ」への取り組みです。校内で、あいさつ強化月間を設定して委員会単位で行いました。全校生徒が日替わりで生徒玄関前に立ち、元気で明るいあいさつを心がけました。明るいあいさつを交わし、さわやかな毎日を送ることができ、自分から進んであいさつできる生徒が増えていきます。また生徒会企画部と学級委員が中心となって横手南中学区の小学校に出向き、小中合同あいさつ運動も実施しました。南中学区の小中学校で誰に対しても、日頃から笑顔であいさつできる地域をめざしてい

ます。

○横手南中学校 小原拓夢

4つ目は「つながり」への取り組みです。交流の輪を広げるために、縦割りの活動に力をいれています。体育祭や合唱コンクール等の行事では兄弟学級にむけて、付箋にメッセージを書きクラスでまとめたものを送り合います。また地域貢献活動として町内の清掃やクリーンアップ等、小学生と一緒にボランティア活動を行いました。

○横手南中学校 勝田涼介

私たちはこれからも安心してすごせる創快な学校生活を送るためにも、全員で取り組み実践し、地域や家庭に広げていきたいと思えます。

○齋藤光司 議長

ただいまから横手南中学校の報告に対する質疑を行います。通告により、8番、寿松木孝議員に発言を許可いたします。8番、寿松木孝議員。

○8番 寿松木孝 議員

ご苦労さまでございます。先ほど南中学校の皆さんの真っ直ぐな、そして熱い思いを説明される、その姿に心打たれまして、非常に質問という形の中では勝手に違って、いつもとの違いに戸惑っているようなところもございますけれども、まずは皆さんの取り組みについて少しお聞きしてみたいと思えます。

横手南中学校でございますが、横手市内では最大の在校生を抱えるマンモス校という形になります。これまでも多くの小学校区の生徒が集まっていた訳ですが、今年からは山内中学校を統合して更に広範囲の学校となりました。そこに集う皆さんの生活環境を含め、多様な環境の中の皆さんが集まって生活している学校であると理解しております。その事は今年の生徒会テーマにも表れておりまして、新たな仲間と躍進し、共に新時代の南中を作り上げていこう、という思いにも込められていると感じる訳でございます。さて、それだけ多くの様々な地域から生徒の皆さんがお集まりだという事ではありますが、お一人お一人の生徒の皆さんの持つ個性が多様になってくるかと思えます。その多様な個性の皆さんを1つの形にまとめ上げて頑張っておられる生徒会活動の推進は、非常に大変な事だったろうなど、その苦労に対しましては心からご慰労申し上げたいと思えます。そのご努力に敬意を表しつつも、次の2点についてお伺いしてみたいと思えます。多くの生徒の皆さんが在籍する中におかれまして、一人一人の生徒の良さを見つける手法として、「ふわふわの木」という先ほど出されたもので活動を実践されているようでございますが、その事で新たに気付いた点はあったのか。その気付きの部分についてお伺いしたいと思えます。2つ目でございます。共通の活動を通じて感謝の取り組みを行っておられますが、そこで感じられたこと、最も効果的だったと思われる運動がございましたら、その取りくみの内容についてお聞かせいただきたいと、このように思う訳でございます。以上で質問にかえたいと思えます。

○齋藤光司 議長

勝田涼介さん。

○横手南中学校 勝田涼介

お答えします。今年度この「ふわふわの木」を実施して、新たに気付いた点が多数ありました。まず普段あまり言葉にして口に出せないことであっても、全校生徒 566 人全員が葉っぱや実の形をした付箋に書き表すということで、素直に相手に気持ちを伝えることができています。また体育館前にふわふわの木を貼ることで、普段あまり関わりのない仲間や他学年の仲間のいいところを知ることもできています。なにより学校全体が、ふわふわ温かい雰囲気になっています。12 月はイルミネーションを意識したデザインにしようと考えています。以上です。

○齋藤光司 議長

小原拓夢さん。

○横手南中学校 小原拓夢

お答えします。感謝の取り組みとして、月替わりで実施する内容を変えて取り組んでいます。普段なかなか感謝の気持ちを相手に伝えることができないことが多い中、この活動を通して主体的に感謝の気持ちをかたちにしたり、相手の気持ちを受け止めたりすることができると感じました。最も効果的だったと思われる運動は、「帰りの会で、今日のキラリを発表しよう運動」です。日直が今日のキラリを発表しますが、クラスメイトもそれを聞いて感謝の気持ちをもつことができます。またキラリになるためにも、誰かのためになれる自分のために普段から行動することもできます。課題としては活動が始まったばかりで、まだ浸透できていないところがあるので声かけを徹底しているところです。以上です。

○齋藤光司 議長

8 番、寿松木孝議員。

○8 番 寿松木孝 議員

ありがとうございました。非常に明確な答弁をなされたと感じております。南中学校のみならず、平成 26 年から Y 8 サミットは今回で数えて 5 回目となります。毎回、状況に対しましては参加をしたり外からは意見したりと関わってまいりましたが、毎回回を追うごとに非常に充実した内容になっているのではないかと感じた次第であります。今日は本当にありがとうございました。以上で終わりにいたします。

○齋藤光司 議長

これで横手南中学校の報告を終了いたします。

次に横手北中学校より、報告を求めます。

◇横手北中学校（加賀谷麻衣・高橋勇晴・大坂美聡）

○齋藤光司 議長

横手北中学校、加賀谷麻衣さん。同じく高橋勇晴さん。同じく大坂美聡さん。

○横手北中学校 大坂美聡

横手北中学校では毎年、北中熟議という取り組みを行っています。これは全校生徒が集まり、自分たちの課題について熟慮し議論をすることにより、自分たちの役割を再確認するとともに解決策を精選させ、一人一人が納得して各自の役割を果たしていこうという取り組みです。昨年度の北中熟議では、北中生の課題として「人任せ」があげられました。これは「自分でなくても」「面倒くさい」という生徒の言葉でも表されます。この言葉は、生徒会活動のマンネリ化にもつながります。そこで今年度の生徒会では、各専門委員長が集まる代議員会を活性化させ、横のつながりを充実させるように心がけました。その結果、放送委員会との連携強化や複数の専門委員会で重複していた役割の見直しにつながりました。

○横手北中学校 加賀谷麻衣

今年の北中熟議は、11月22日に地域の方々と交えての校訓掲額式を行うことを機会に、横手北中学校の存在意義や地域における役割について全校で熟議したいと考えています。私たちの横手北中学校は鳳中学校、横手西中学校、金沢中学校が統合してでき、今年で6年目を迎えます。夜に地域の方々が体育館で体を動かしたり、時おり卒業した先輩方が心の拠り所として訪れたり、いざというときの避難場所でもあります。広い地域における唯一の中学校として多くの方々に親しまれています。そのように考えたとき、今横手北中学校で生活している私たちがやるべきことは何か、愛校心をもっともっと大切に施設を使っていくべきではないか、横手のかまくらや金沢ささら舞などの地域伝統行事をもっと学び継承すべきではないか、地域の誇りとなるように学業や部活動で横手北中学校の名をもっと発信できるように頑張るべきではないかなど、全校生徒一人一人が横手北中学校の存在意義を熟議したいと考えています。

○横手北中学校 高橋勇晴

今年の横手北中学校のキャッチフレーズは「Let's ギロン」。私たちが育ててくれているふるさとや地域を意識した北中熟議を通し、全校生徒で議論し、「北中宣言」を設定することで後期の学校生活を充実させ、地域に愛される北中を後輩たちにしっかりと引き継いでいきたいと思えます。

これで横手北中学校の報告を終わります。

○齋藤光司 議長

ただ今から横手北中学校の報告に対する質疑を行います。通告により13番、菅原正志議員に発言を許可いたします。13番、菅原正志議員。

○13番 菅原正志 議員

皆さまお疲れ様でございます、菅原正志です。見た目より怖くありません。50年前、私も生徒会長をやらせていただきました。当時は先生方のご指導のもと、生徒会活動のあるべき方向に沿っての活動であったように思います。それに比べると皆さんは自発的であり、自主的であり協調性も優れていると思います。役員だけが頑張るというのではなく、共感し協働性を持つことは大切であります。いかに一人一人に活動に関心を持ち、参加してもらうかは基本であり課題でもあります。そのために話し合いを充実させる事は重要です。そこでキャッチフレーズの「Let's ギロン」に大いに期待するものであります。

す。そして熟議が具体的にどのような方法で行われているのかを伺います。次に取り組みの成果と継承について伺います。学習でも部活動においても、成し遂げたときの達成感は快感です。しかし時には、結果に結びつかない事もあるのが現実であります。それでも知恵を出し、声を出し、汗をかいて取り組む過程こそが意義のある事だと私は思っております。皆さんが日々心を込めて取り組んでいる事が自信となり、誇りになり伝統となっていく事でしょう。市内中学校の中で朝倉小、旭小、旧金沢小、旧境町小、旧黒川小と最も多くの地域を背景とし、色々な宝物を持ち合わせた横手北中であります。皆さんの活動が更に活性化される事をお祈りして質問の結びといたします。

○齋藤光司 議長

加賀谷麻衣さん。

○横手北中学校 加賀谷麻衣

お褒めの言葉と、ご助言ありがとうございます。

一つめの質問の熟議の進め方について、今年度の北中熟議を例にお答えします。先ほど報告したように、今年度は横手北中の存在意義をテーマに熟議を進めています。はじめに地域とのつながりを意識し「愛校心」「伝統行事」「発信力」を3つの柱に、各クラスで一人一人が考える、目指すべき横手北中の姿を出し合う学級熟議を行いました。次に各クラスで出された意見を学年委員と生徒会執行部員で集約し、学年熟議の見通しと進め方について話し合いました。学年熟議ではクラス混合の9グループに別れ、各学級で話し合われた内容について紹介した後、3つの柱ごとに大きなグループをつくり、それぞれの柱について学年で目指す横手北中の姿を1つにまとめました。全校熟議では3つの柱ごとに1年・2年・3年が混じった12のグループをそれぞれつくり、各学年でまとめた目指す横手北中の姿を自分が選んだキーワードをもとに説明しました。学年で決めた目指す姿は1つですが、どのキーワードを選んで説明するかによって一人一人の思いがこもります。その後、12のグループを約100名の大きなグループにして、出てきた文章やキーワードの中から大事にしたいものをいくつかに絞り込み、北中宣言の大枠を決めました。現在、生徒会執行部で愛校心、伝統行事、発信力の3つの柱について最終的な北中宣言をまとめているところです。このように各熟議の段階で、一人一人が考えを話す機会をつくることで自分自身の問題として捉え、北中生全員の意思が反映されるように熟議を進めています。以上です。

○齋藤光司 議長

高橋勇晴さん。

○横手北中学校 高橋勇晴

二つ目の質問の今年度の活動の中で築けたこと、後輩に引き継ぎたいことについてお答えします。

大きく二つありますが、一つは自分たちで課題意識をもって行動すること、もう一つはボランティア意識の向上です。

今年度の熟議のテーマを考えるときに、生徒会執行部ではいじめのない学校を目指して独自にいじめ調査を行いました。その結果、当人同士は楽しそうに見えても端から見れば、軽口の言い合いや、プロ

レス技の掛け合い、うわさ話などいじめにつながる行動が気になっている生徒が多く見られました。この調査結果は、今回の熟議の大きなテーマとはなりません。しかし愛校心を考える上で、大事な視点になったと思います。ぜひ後期の活動で、いじめの芽を摘もうという自分たち独自の活動に結びつきたいと考えています。後輩たちには自分たちで課題意識をもって活動する、という姿勢を大事にしてほしいと思います。

ボランティア意識の向上では福祉委員会の呼びかけもあり、募金活動への協力や横手川クリーンアップへの参加者が昨年より増えています。しかし市民盆踊りの参加者は減ってしまいました。そこで来年度の参加増を呼びかけるため、学校祭予行で観客の生徒と一緒に踊ろうと誘ってみるなど、今までと違った呼びかけも行いました。今後もかまくらに向けて、ボランティア参加の喜びや楽しさ、面白さなどを後輩たちに伝えていきたいと思います。ぜひ来年入学する1年生にも、ボランティアに対する思いが伝わるような活動をしてほしいと思います。以上です。

○齋藤光司 議長

13番。

○13番 菅原正志 議員

分かり易いご答弁ありがとうございました。皆さんの良いところ強みを今一度確認して、それを基礎に今後ますます頑張ってくださいと思います。本日はありがとうございました。

○齋藤光司 議長

これで横手北中学校の報告を終了いたします。
次に増田中学校より報告を求めます。

◇増田中学校（関凌星・佐々木晟人・大石結子）

○齋藤光司 議長

増田中学校、関凌星さん。同じく佐々木晟人さん。同じく大石結子さん。

○増田中学校 佐々木晟人

「原点」に戻る創快宣言について。

今年度増田中学校では、創快宣言に基づいた活動を主に行ってきました。それは昨年の先輩方から「創快宣言が形だけになっていないか」という疑問が挙げられたからです。これを受けて私たちは、もう一度原点に立ち返ることにしたのです。まず一つ目は「認め合い」に関する活動です。いじめのない学校生活が「認め合い」に繋がると考え創快アンケートを実施しました。質問内容として人が不快になる言動、行動を見かけたことがありますかなどで、結果は「いいえ」が八割程度でした。これからマナーアップを強化し、今後このアンケートが全て「いいえ」になるよう努めていきます。

二つ目は「あいさつ」に関する活動です。増田中学校では、「挨拶マスター」の取り組みや「挨拶運動」を実施しました。挨拶運動では中央委員が中心となって朝早くから行う事で一日のスタートを元気

よく切る事ができます。挨拶マスターは挨拶の前に一言つける 120 点の挨拶をする人の事で、これを実践する事で自分も相手も快い気持ちになります。これを続ける事で質の良い挨拶を目指してきました。

○増田中学校 大石結子

三つ目は「つながり」に関する活動です。増田中では地域、小学校との繋がりを深めてきました。9 月 22 日に行われた「スマートカレッジ」では市内外からいらっしやった観光客の皆さまに増田が誇る蔵を案内しました。その事で地域の文化に触れ、繋がりを更に深くすることができました。小学校では、中央委員が中心となって小中連携挨拶運動を行い小学生とも繋がる事が出来ました。四つ目は「感謝」に関する活動です。10 月に開催された「増中祭」では地域の方々や保護者の方々に日頃の感謝を伝え、真心いっぱいのおもてなしをする事ができました。

こうして原点回帰を意識し、全校生徒が「創快宣言」に基づいた生活ができました。他にも増田中の伝統である K「校歌」A「挨拶」O「応援」の KAO を、激励会などの各行事を通し継承する事が出来ました。

○増田中学校 関凌星

しかし、まだ課題が残っています。それは今年度の生徒会テーマである「我伝」、「自分の思いを他者に伝える」事です。この課題を解決すべく増田中では授業や諸活動で「関わりタイム」を大切にしてきました。この活動では周りの人と互いの意見を交換し、自らの考えを深めたり、自分の意見を相手に伝える努力をしてきました。ですが、小さな集団の中で意見がでてでも全体の場に出せない為、自らの考えがもっと多くの人に伝えきれていないという現状が続いています。そこで私達はこれから、創快宣言に基づいた活動を続けつつ、増中生徒がより活発な意見交換が出来る学校作りを目指した活動をしていきます。これで増田中学校の報告を終わります。

○齋藤光司 議長

ただ今から増田中学校の報告に対する質疑を行います。通告により 12 番、菅原亀代嗣議員に発言を許可いたします。12 番、菅原亀代嗣議員。

○12 番 菅原亀代嗣 議員

増田中学校の皆さん、今日はよろしくお願ひいたします。42 年前、平鹿町の浅舞中学校を卒業しました菅原亀代嗣です。私は中学時代、野球部でしたので増田中学校のグラウンドには何度かお邪魔しております。レフト側が広く、ライト側が狭かった記憶があります。また増田中学校の皆さんには、現在校舎の長寿命化改修工事で大変ご不便、ご迷惑をお掛けしています。では通告に従いまして質問をさせていただきます。

原点に立ち返る創快宣言、一つ目の「認め合い」、二つ目の「挨拶」、三つ目の「つながり」、四つ目の「感謝」、どれも素晴らしい取り組みだと感じました。その中で特に気になったのは、「つながり」の活動です。横手市では増田の蔵を観光の目玉の 1 つとして、色々な政策に取り組んでいるところです。観光客の皆さまに対し、増田中学校の皆さんがスマートカレッジの活動の中で蔵を案内することは、蔵

の魅力を外に発信する力を持っていると感じました。そこで（１）として、去る９月２２日、観光客の皆さまに増田が誇る蔵を案内した時の、詳しい取り組み内容についてお知らせください。

増田の蔵の魅力を横手市の他の中学校の皆さんにも、広く知っていただくためにスマートカレッジの活動をＹ８に拡大し、他の中学校の皆さんも巻き込み今後実践できないものか、（２）として増田中学校の皆さんのご見解をお伺いいたします。これで質問を終わります。どうぞよろしくお願いいたします。

○齋藤光司 議長

関凌星さん。

○増田中学校 関凌星

お答えします。まず一つ目のスマートカレッジの内容についてですが、スマートカレッジは９月２２日に増田町の中七日通りで各蔵に増田中の３年生１０名が、それぞれ担当した蔵の特徴や増田町の歴史を説明しました。その蔵の中には県内では珍しい家の中にある内蔵や、三階建ての蔵などがあり参加者の方々は驚きの表情で説明を受けてくれました。この活動後の感想として、増中生からは参加者の皆さんから「説明してくれてありがとう。助かったよ。」と言葉をいただき今までにないやりがいを感じました、という意見や、この活動を機会にふるさと秋田の名が全国に広がると嬉しいです、という声がありました。また参加者の方からは、「中学生や所有者の方の対応や説明も分かり易かったです。今後もこのような活動を続けて欲しいです。」という声がありました。そして二つ目のスマートカレッジのＹ８拡大についてですが、スマートカレッジの趣旨として、「地域の誇りとなるような人、地域にある有形、無形の文化財、地域を元気にしている人などから、ふるさと秋田の魅力を学ぶ講座」となっています。これらの活動を行う事で、私達は地域の魅力を再発見し地域に対する興味、関心を高める事ができました。また趣旨にある地域を元気にしている人の一翼を担えたのではないかと感じています。今後他地区においても、今回のスマートカレッジで増中生が行った活動ができないか話し合っていけたらと思います。以上です。

○齋藤光司 議長

１２番、菅原亀代嗣議員。

○１２番 菅原亀代嗣 議員

丁寧な説明ありがとうございました。このような素晴らしい活動を、ますます続けていってください。以上です。ありがとうございました。

○齋藤光司 議長

これで増田中学校の報告を終了いたします。

次に平鹿中学校より報告を求めます。

◇平鹿中学校（藤田真理子・大島光春桜・師岡里佳）

○齋藤光司 議長

平鹿中学校、藤田真理子さん。同じく大島光春桜さん。同じく師岡里佳さん。

○平鹿中学校 大島光春桜

平鹿中学校の活動についての報告をします。まずは挨拶です。平鹿中学校では昨年と同様に各出身小学校に出向きあいさつ運動を行いました。あやめグリーティングというあいさつの三原則に基づき実施しました。

あやめグリーティングとは「あ」「相手より先に大きな声で」、「や」「優しい笑顔で」、「め」「目と目を合わせて」のように浅舞に咲き誇るあやめの花の頭文字を使って作られたものです。今年度は5月と7月の2度、中学校区の3つの小学校に出向いて挨拶運動を実施しました。小学校の児童会とも協力して行う事で、人と人との輪をつなげる事ができました。また各小学校からは、前よりも大きな声で挨拶をする児童が増えたとの感想もいただきました。先日行われた平鹿中祭では全校生徒が一丸となりお客様をお迎えしました。そこでは多くのお客様から「平鹿中学校はあいさつがいい」とのご意見をいただきました。これはこれまで進めてきたあいさつ運動が実を結んだ結果だと思えます。

しかし、まだ課題は残っています。この活動を通年にわたって活性化することや、どの生徒も意識して挨拶をできるようにすることです。これらを今年度から来年度にかけ、改善していきたいと考えています。

○平鹿中学校 藤田真理子

続いて感謝に関わる取り組みについての報告をします。今年の平鹿中祭では友達や地域の方、家族への感謝のメッセージを掲示する、笑顔写真プロジェクトを行いました。このプロジェクトで平鹿中生から、たくさんのメッセージをいただく事が出来ました。そしていただいたメッセージを笑顔写真と共に廊下に掲示し学校祭へ来て下さった方々に見てもらいました。この笑顔写真プロジェクトは今年初めて行った企画です。学校祭の時期に合わせて、周りの人への感謝を伝える、いい機会になったのではないかと思います。そして、この笑顔写真を通して平鹿中生のつながりがさらに強くなったと感じています。

○平鹿中学校 師岡里佳

最後に認め合いに関わる取り組みについての報告をします。

平鹿中学校生徒会では、各学年の廊下に「ほっとポスト」というポストを設置し、日頃の感謝や思いを手紙に書きポストに投函してもらおうという活動をしています。

寄せられたメッセージは木曜日に行う「ひらじゅう」というラジオ風の放送で紹介しています。このポストを設置することで、普段なかなか口にするのでできないことや新たな生徒の気付きなど、お互いを知るよい機会となっています。なかなか直接伝えられない思いを匿名で伝えることで、認め合いやつながりを深めることができます。この活動を続けていくことで確実に平鹿中学校は温かい雰囲気になってきています。これからも互いに認め合い感謝しあう温かい活動を続けていきたいと思えます。ただ、ほっとポストも決まった話題での投稿が多く、マンネリ化しているということも事実です。そうならないようにする手立てについても考えて行く必要があると思えます。以上で平鹿中学校の報告を終わります。

す。

○齋藤光司 議長

ただ今から平鹿中学校の報告に対する質疑を行います。通告により1番、本間利博議員に発言を許可いたします。1番、本間利博議員。

○1番 本間利博 議員

平鹿中学校の皆さん、よろしく願いいたします。私からは二つの質問をさせていただきたいと思います。

まず一つ目、あやめグリーティングについて伺います。挨拶というのは人間関係の基本だと思います。平鹿中学校では学校内にとどまらず、地区の小学校にも呼びかけて挨拶運動を広めているという事で非常に素晴らしい取り組みだと思いました。特に地域のあやめに絡めたネーミングは、非常に素晴らしいなと思いました。あやめの「め」ですが、「目と目を合わせて」というところが実は大変重要だなと思います。なかなかできる事ではありませんが、これを家族の方や地域にも是非広めていただきたいと思います。同時に課題もあるようです。実際に活動してみてもの課題と、その改善策について伺います。

次に笑顔写真プロジェクトについて伺います。友達や地域の方、家族への感謝のメッセージを笑顔写真と共に掲示するアイデアも、単に文字で伝えるよりもはるかに説得力があつて素晴らしい取り組みだと思います。特に笑顔を添えるという事は、その人の安心感や幸福感が同時に伝わるものではないかと思います。気持ちが伝わりやすくなるこの取り組みですが、このプロジェクトには笑顔がキーポイントだと思います。生徒の皆さんの反応はどうだったのでしょうか。そしてまた、どのようにして素晴らしい笑顔の写真を撮っていったのか伺います。以上よろしく願いいたします。

○齋藤光司 議長

藤田真理子さん。

○平鹿中学校 藤田真理子

お答えします。

まず、あやめグリーティングの課題として挙げられるのは、大半の生徒があやめグリーティングを意識した挨拶をしてくれている分、挨拶の声が小さい生徒などがとても目立つということです。全員に笑顔で挨拶をしてもらえるよう、引き続き努力をしていくべきだと思います。そのことの改善策として、あやめグリーティングを地域全体での取り組みとして展開していくことを考えています。あやめグリーティングを地域全体で行い、着実に回数を重ねていくことで改善できるのではないかと考えました。そうすることで、今まで挨拶を返してくれなかった生徒の意識向上だけでなく、地域全体の挨拶の活性化が期待できると思います。私たちは、地域として最初の受け皿となるのは家庭であると考えました。家庭への呼びかけを積極的に行い、この挨拶運動を広げていきたいです。そしてあやめグリーティングで挨拶をしているということが、平鹿地域の一つの文化となっていくといいと思います。以上です。

○齋藤光司 議長

師岡里佳さん。

○平鹿中学校 師岡里佳

二つ目の質問について、お答えします。

まず皆さんの反応として、「感謝メッセージに笑顔写真を付け加えることで普段は恥ずかしくて言えなかったり、聞くことができなかつたりした気持ちを聞くことができた」と好評でした。私たちからみても、最初は恥ずかしがっていたように感じましたが、周りの生徒の声掛けなどもあり、みんな楽しそうに活動していたように感じました。

次に写真の撮り方についてお答えします。ポーズは特に指定せずまた、生徒同士で写真を撮ることで、自然な笑顔を撮ることを心がけました。その人の顔がよく写るよう、校内のどこが一番よく写るのか、何回も写真を撮って確認しました。その結果、光が全面から入ってくる階段の踊り場での撮影となりました。学校祭当日には平鹿中生の笑顔を地域の方々に届けることができました。以上です。

○齋藤光司 議長

1番、本間利博議員。

○1番 本間利博 議員

ありがとうございます。「目と目を合わせる」それから「笑顔」そしてさらに「家庭」という言葉がキーワードになるのかなと伺いました。この活動が地域の誇りに繋がるように是非、頑張っていってください。以上で質問を終わります。

○齋藤光司 議長

次に横手明峰中学校より報告を求めます。

◇横手明峰中学校（丹波楓子・菅原零・太田春香）

○齋藤光司 議長

横手明峰中学校、丹波楓子さん。同じく菅原零さん。同じく太田春香さん。

○横手明峰中学校 丹波楓子

本校の生徒会には、「MHR」と「バディークラス活動」という大きな二つの柱があります。「MHR」とは「Meiho Heartwarming Rerationship」の略称で、毎日の生活の中で、心温まるような絆やつながりを大切にしていこうというものです。もう一つの「バディークラス活動」とは、各学年5クラスを、1年生から3年生までの縦割りにしたもので、様々な活動を通して、異学年間のつながりを高めていこうというものです。

○横手明峰中学校 菅原零

まずは、「MHR掲示板」について報告します。この掲示板では、私たち横手明峰中学校の合言葉でもある「MHR」を生徒一人一人が実感し、明峰生の全体が目指す姿に近づいていくために設置された

ものです。

掲示板には、クラスや学年の壁をこえて、「重い物を運ぶときに手伝ってくれてありがとう。」や「勉強でわからないことを教えてくれて助かった。」というような、仲間の良いところや、仲間に対しての感謝の気持ちなどが書かれています。この掲示板を通して、どんなに小さな出来事や、他人の行動にでも感謝を表せるようになってきていると感じます。この掲示板への書き込みがさらに広がっていくことで、クラスや学年の壁をこえた一人一人のつながりが増えると同時に、そのつながりがさらに強いものになっていくと思っています。

○横手明峰中学校 太田春香

次に、本校で行った「MHRdays」について報告します。この活動は、バディークラス毎に横手明峰中学校区の三小学校と、今年度から新たに加えた雄物川高校で挨拶運動をするものです。MHRdaysに参加した生徒は、玄関ホールにあるコーナーに振り返りを付箋に書いて掲示します。振り返りは他の生徒も自由に見ることができるようになっており、「友達の挨拶が爽やかで見習おうと思った」や「小学生の明るい挨拶に元気をもらった」などの感想が書かれています。

小学校や高校で挨拶運動をすることで、自分たちの後輩方や先輩方と交流し、つながりをもつことができました。また校内だけではなく、地域の方々や校外でも、自分から挨拶しようとする意識を高めることができました。

一方で、クラスによって参加者にばらつきがあるという課題も見えてきました。自分から希望する人、挨拶をすることに対して、一人一人がさらに積極的に取り組めるようにしていきたいと考えています。

○横手明峰中学校 丹波楓子

最後に、今年の明峰祭で行った「マナーアップキャンペーン」について報告します。これは、明峰祭に来て下さったお客様に、日頃の感謝の気持ちを、実際の態度や行動で伝えるとともに、MHRを地域にも広めたいという思いで実施したものです。

明峰祭当日、生徒全員がバディークラスカラーのリボンを身につけ、明峰生の「MHR」な取り組みについてお客さまにバディークラスごとに評価してもらいました。

お客様からは「落としたプログラムを拾ってもらった」「道案内をしてもらった」などの声が聞かれるとともに、投票コーナーにはたくさんのシールが集まりました。地域と明峰生とのつながりが生まれとても良かったと思います。また明峰祭当日に「73歳の婆さん」という方からお手紙をいただきました。一部抜粋して読ませていただきます。

「学校関係の皆さん、本当にご苦勞様です。今回はゆっくりと時間を過ごす事が出来て喜んでいました。食堂を出て休憩室で休んでいって下さいと言われて入ってみたら、直ぐに熱いお茶を出してくれてびっくりしました。座って休む場所が欲しかったので、本当にほっとしてお茶をごちそうになりました。おいしかったです。廊下に出ると生徒達の笑顔がいっぱい嬉しくて見ていました。頑張っている顔は輝いていて心を和ませてくれ、ついつい背中を押してあげたくなります。73歳の婆さん。」

しかし初めて取り組みだったため、お客様への投票のお願いが不足してしまったり、生徒が廊下を広がって歩いて通行の妨げとなってしまうと、取り組みが浸透しきれていなかったことが課題として挙がりました。来年以降は、「明峰生の心温まる行動」をより具体的な例を示したり、当日の校内放送で投票の呼びかけをしたりするなど、お客様と生徒の両方に、この取り組みをより意識してもらえようにするべきだと考えています。以上で横手明峰中学校の報告を終わります。

○齋藤光司 議長

ただ今から横手明峰中学校の報告に対する質疑を行います。通告により 26 番、菅原恵悦議員に発言を許可いたします。26 番、菅原恵悦議員。

○26 番 菅原恵悦 議員

皆さんこんにちは。横手市議会、総務文教常任委員会の菅原恵悦です。ただ今の明峰中学校の取り組みについて報告をいただいた中から、二つ質問をいたします。

最初に「MHR 掲示板」についてお伺いをいたします。IT 時代の今、仲間同士の連絡は SNS 等のラインの活用が主であると伺っております。こうした時代に、手書きによる文章というのは心のこもった、心和ませるものと思います。生徒同士が掲示板に感謝の気持ちを書き貼り付ける、そうした事は心温まる取り組みでお互いの励みになるものと感じました。しかし、この書き込みがさらに広まっていくといずれ「MHR 掲示板」はいっぱいになると思います。その時はどうしますか。また下級生への引き継ぎはどのようにするのでしょうか。

次に明峰祭マナーアップキャンペーンについてお伺いいたします。日頃の感謝の気持ちを実際の態度や行動で伝えると共に「MHR」を地域に広めたいとして、明峰祭において生徒全員がバディークラスカラーのリボンを身につけ、お客様にバディークラスごとに評価をしてもらったところ来年度以降の課題も色々と見えてきたようであります。校内活動において英語の表記だけでは、例えば年寄りなどは分からないのではないかと私は思う訳でありますけれども、これをどのように地域に広めていきますか。また投票コーナーに、たくさんのシールが集まったとありますが、このシールはどういう物で、どのような使われ方をされたのかお尋ねをいたします。よろしくご答弁お願いします。

○齋藤光司 議長

菅原零さん。

○横手明峰中学校 菅原零

まず「MHR 掲示板」についてお答えします。1 枚目の掲示板がたくさんメッセージで埋まったら、その横に 2 枚目の掲示板を設置していきたいと思います。せっかく全校生徒のみなさんが書いてくれた心のこもったメッセージなので、可能な限り残していくとともに、新しくメッセージを書く生徒に参考にしてもらいたいと考えています。

引き継ぎについては、現執行部から新執行部への引き継ぎを行う際に、「MHR 掲示板」についても引き継いでいきたいと思っています。その際に、「MHR 掲示板」の目的について理解してもらうことが最

も大切なことと考えています。時間がたつにつれて「ただやれば良い」というものになっていくことのないようにしたいと思います。以上です。

○齋藤光司 議長

丹波楓子さん。

○横手明峰中学校 丹波楓子

明峰祭マナーアップキャンペーンについてお答えします。「MHR」をどのように広めていくのかという事について、これまでは、「MHR」というアルファベット表記だけだったものを、これからは「MHR」を日本語で具体的に示した「心を開き 心を通わせ もっと自分が好きになる もっとみんなが好きになる」も合わせて表示するようにしたいと思います。そうすることで、小さな子どもやお年寄りの方にも理解してもらえるようになり「MHR」を広めていけるとと思います。ご指摘ありがとうございました。

次の質問についてですが、明峰祭当日に、明峰生の「心温まる行動」をお客様が見付けたら、その生徒が身につけている、このようなクラスカラーのリボンと同じ色の投票箇所シールを貼ってもらいました。こちらの写真が実際の投票コーナーの様子です。投票用のシールは事前に準備し、受付時にプログラムと一緒にお客様に渡しました。以上です。

○齋藤光司 議長

26番、菅原恵悦議員。

○26番 菅原恵悦 議員

ありがとうございます。国際スポーツ大会の試合の終わった後にですね、会場でゴミ拾いをしている日本人を見て、その行為が世界中に広まった。人々が爽やかな気持ちになれる、その行為が世界を変えるんだなと感じたところであります。皆さんの取り組みは、さらに努力する事によって地域を明るく元気にしてくれるものと期待をしております。頑張ってください。

○齋藤光司 議長

これで横手明峰中学校の報告を終了いたします。

次に十文字中学校より報告を求めます。

◇十文字中学校（小川雅弘・菅原楓太・笹山日菜子）

○齋藤光司 議長

十文字中学校、小川雅弘さん。同じく菅原楓太さん。同じく笹山日菜子さん。

○十文字中学校 小川雅弘

十文字中学校が特に力を入れて取り組んだ活動を報告します。

まずは「あいさつ」と「認め合い」についてです。十文字中学校生徒会には、十中生「あい」宣言というものが 있습니다。このあい宣言では、「あいさつをさわやかに交わします」、「相手も自分も大切にします」、

「あいで団結力を高めます」と、十中生が目指す姿を3つにまとめています。一つめの「あいさつ」の実現に向け、生徒会執行部や生活委員会が中心となり、朝のあいさつ運動を行っています。この、あいさつ運動を通して、朝から活気ある学校作りに努めています。また、各学級でもこの「あい」宣言をもとに具体的にどのように取り組むか話し合い、「あい」実現宣言を作成しました。また、学級会で、「あい」実現宣言の取り組みを見直し、改善案を話し合い、生徒全員の意識を高める活動を行いました。生活委員会では、Mr&Miss 十中という企画を行っています。これは、「あい」宣言を心がけ、実際に行動している十中生を全校に紹介して、互いに認め合い、十中生の目指す姿を再確認しようという企画です。各学年ホールに記入用紙と投稿ボックスを設置し、投稿してもらいました。寄せられた投稿は、昼の放送や廊下に掲示して全校に紹介しました。

○十文字中学校 笹山日菜子

次に、「感謝」についてです。十文字中学校では、様々な行事を通して地域の方々に感謝の気持ちを伝える活動に取り組んでいます。地域のお祭りである「狸々まつり」や、老人ホーム「憩寿園」に吹奏楽部が訪問し、日頃の感謝の気持ちを込めて演奏を行っています。また十中祭では地域の方々に感謝の気持ちを伝える絶好の場と捉え、地域の方々を最優先に楽しんでもいただけるように、十中祭マナーアップ大作戦を展開しました。十中祭のフィナーレでは、全校生徒による校歌斉唱で地域の方々に感謝の気持ちを伝えることができました。

○十文字中学校 菅原楓太

最後に、「つながり」についてです。十文字中学校では、出身小学校の児童と一緒に地域ボランティア活動があります。これは、十中生が自分の出身小学校の学区に行き、地域町内の民生委員の方とその町内の小学生と一緒にボランティア活動を行うものです。今年は7月10日に行いました。十文字第一小学校区では、町内ごとに集合し、町内や公園のゴミ拾い活動を、十文字第二小学校区では、学区内の家庭を巡り、廃品活動を行いました。植田小学校区では、町内のカーブミラーの清掃と、一人暮らしの家を訪問しプランターを贈呈する活動を行いました。睦合小学校区では、睦合小学校のクリーンアップ活動を行い、小学生と交流しました。この活動を通して、小中の連携が図れると共に、自分が住んでいる地域にも積極的に貢献し、つながることができました。十文字中学校の取り組みについては以上です。

○齋藤光司 議長

ただ今から十文字中学校の報告に対する質疑を行います。通告により24番、土田百合子議員に発言を許可いたします。24番、土田百合子議員。

○24番 土田百合子 議員

Y8の皆さん、こんにちは。今日は皆さんも緊張していると思いますが、私も皆様と同じ思いでございます。私たちに与えられた使命は、共にいじめをなくし、励まし合える世界を作る事だと思っております。子どもたちは大人の鏡であり、大人の私たちが襟を正し真剣に取り組む事が大事であると感じておりま

す。先日の文科省の問題行動調査では、いじめの認知件数は全国で 41 万 4 千件、特に小学校の低学年での増加傾向であるとの報告がございました。Y8サミットの活動の展開は今後ますます重要性を帯びてきていると思います。今後の小中連携の活動の中で、幾重にも広げていただき、いじめのない学校環境をみんなで力を合わせて作っていきたいと思います。

それでは本題であります、十文字中学校における「あい」宣言の取り組みについてお伺いをいたします。挨拶を爽やかに交わし、その一言が心をつなぐ架け橋に。また相手も自分も大切に。「あい」で団結力を高めるなど、十文字中学生が目指す姿を具現化し、実行している事は非常に評価のできるものと思います。また「Mr&Miss 十中」の企画などを推進し、目指す姿が形になってきたと思いますが、今後どのような「あい」宣言を継続していくのか、どのような課題があるのかをお知らせください。

次につながりについてお伺いをいたします。出身小学校の児童と一緒に地域ボランティア活動が、先日の福祉大会で民生委員の方と、町内会の一人暮らしの方を訪問し、プランターを贈呈する活動が紹介されておりました。大変心温まる取り組みを展開されていると思います。これから小学校の統合が控えておりますが、このような地域のつながりを是非継続して実施していただきたいと思うのですが、そのお考えについてお伺いいたします。以上で質問を終わります。

○齋藤光司 議長

笹山日菜子さん。

○十文字中学校 笹山日菜子

一つ目の質問についてお答えします。各学級での「あい」実現宣言については、5月に各クラスで学級生徒会という話し合いの時間を設け、「あい」宣言を実現するために具体的な目標を設定しました。この「あい」実現宣言に対する意識を高めるために、9月の下旬に実現宣言の見直しを図り、各クラスであらたに後期の「あい」実現宣言を設定しました。後期は特に、各学級の取組が「形」として表れるように意識しました。そして現在、教室の中に「あい」実現宣言を掲示し、学年委員会を中心に実行しています。

また、各専門委員会でも、「あい」宣言を意識した活動を行うように、呼びかけています。生活委員会で行っている「Mr&Miss 十中」に投稿された例としては、「Aさん。いつも朝に明るくあいさつしてくれて明るくなります。私もまねしてみたいととても思いました。」、「Kさんはいつも掃除の時に、みんなが積極的にやりたがらないところを隅々までしっかり掃除をしていたのでとてもいいと思いました。」というものがあり、11月8日の昼の放送で全校に紹介しました。体育委員会では、全校駅伝大会を企画・運営し、「あい」で団結力を高めます」を実現することができました。「あい」宣言が制定されたのは平成25年度の生徒総会で、その後2回の改定を行い、現在の形になっています。しかし、その制定された趣旨や、想いについて、1、2年生が理解が薄いというのが現状です。そこで今後、生徒会選挙が行われ、新しい生徒会に引き継がれていきますが、「あい」宣言に対する、先輩方の思いを継承していきたいと思います。以上です。

○齋藤光司 議長

菅原楓太さん。

○十文字中学校 菅原楓太

二つ目の質問についてお答えします。十文字中学校では、これまで十文字地区の4つの小学校と小中連携の活動を行ってきました。先ほど紹介した地域ボランティア活動のほか、8月下旬には、小学6年生を対象に、中学校体験入学を行いました。また、今月19日、十文字地区の小学生5・6年生を十文字中学校生徒と一緒に、「いきいき」プロジェクト集会を行う機会が得られました。そこでも小学生と中学生の交流を通して小中の連携を深めていきたいと考えています。平成33年に十文字地区の小学校統合に伴い、これまでの活動がどのように実行できるか現段階ではわかりませんが、十文字中学校生徒会では、小学生と共に、地域のために福祉活動を継続して実施したいと考えています。以上です。

○齋藤光司 議長

24番、土田百合子議員。

○24番 土田百合子 議員

皆さまの本当に凛々しい姿に、大変に感無量でございます。先生方にも、心より感謝申し上げたいと思います。是非ですね、将来はこの議場に皆さんが来ることを、本当に心待ちしておりますのでよろしくお願いたします。十文字中学校校歌にあります様に、かけがえのない1つだけの旅を、新しく温かい心のままに自分らしく輝いていく、そのための運動であるという事を心に誓ってこれからも頑張りたいと思います。私も皆さまに頑張る事をお誓いして、終わりたいと思います。本日は大変に有難うございました。

○齋藤光司 議長

これで十文字中学校の報告を終了いたします。

次に横手清陵学院中学校より報告を求めます。

◇横手清陵学院中学校（寺田倭子・柏谷眞之介・菅原梨湖）

○齋藤光司 議長

横手清陵学院中学校、寺田倭子さん。同じく柏谷眞之介さん。同じく菅原梨湖さん。

○横手清陵学院中学校 寺田倭子

本校では、「清陵イノベーションプロジェクト」という横手清陵学院中学校をさらに良い学校にするための活動に、毎年、生徒会執行部を中心に全校で取り組んできました。今年度は、4月のY8サミットにおいて提案された「いじめのない快適な学校生活の創造」のために生徒会活動を推進してきました。では、これから横手清陵学院中学校で今年度取り組んできた主な活動を紹介していきます。

まず、いじめのない学校を創るには「人間関係」が最も重要であると考えました。そこで今までの自分と周囲の人たちとの関係を今一度見直し、誰とでも分け隔てなく交流しながら学校生活を送ろうという思いを込めて、今年の清陵イノベーションプロジェクトのテーマを、「清陵よりよいキズナ

project」として活動に取り組んできました。このプロジェクトにおいて、私たちは人間関係とそこに大きく関わってくる SNS 利用に注目しました。

○横手清陵学院中学校 柏谷眞之介

まず初めに、人間関係と SNS の利用について全校生徒を対象にアンケートを行いました。このアンケートの結果から、人間関係については2つの項目、SNS の利用については自由回答欄の意見に注目しました。人間関係では「いつも同じ人といることが多いか」という質問で、“はい”という回答の割合が86%にも及びました。また、「グループを作る際に、まだグループに入っていない人を誘っているか」という質問で14%の人が“いいえ”と答えました。また2つ目の質問で“いいえ”と答えた人からは、「まだどこのグループに入るか決まっていない人を、自分からは誘いにくい」という声も聞こえてきました。また、SNS の利用については、自由回答欄に「家で勉強したいのに LINE の返事を返さなければならず勉強に集中できない」といった意見や、「SNS で誤解が生じてトラブルになった」「利用時間を制限するべきだ」などの意見がありました。このアンケート結果を全校生徒に伝え、どうしたらこのような問題を解決し、いじめのないより快適な学校生活を送れるのか、各学級で話し合いをして、意見や提案を考えてもらいました。各学級から寄せられた意見や提案をまとめて、私たち生徒会執行部で、新しい企画を考案したり、ルールを企画したりしました。

○横手清陵学院中学校 菅原梨湖

1つ目の人間関係については、複数の学級から、お互いの良さを認め合う場面がもっとあれば、声をかけやすい雰囲気が生まれ、清陵中生同士がより仲良くなれるのではという意見が挙げられました。そこで、生徒会執行部では“Praise Tree”（プレイズ・ツリー）というものを企画しました。“Praise”は「ほめること、賞賛」を意味し、“Tree”は「木」を意味します。付箋に級友の良いところや頑張りを書いてもらい、それを掲示して見てもらおうというものです。この活動は、2学期と3学期の終わり頃に各学級で行ってもらう予定です。

先月行われた本校の学校祭、「清陵祭」で同じような活動を実験的に行ってみました。こちらの写真はその作品です。生徒1人につき5人のいいところを付箋に書いてもらい、それを大きなハート型になるようにして掲示しました。この活動は横手市中学校創快宣言の「認め合い」と結びつく活動でもあります。これからもお互いを認め合いながら学校生活を送ってほしいと思います。

2つ目の SNS の利用の仕方については、各学級から機器の設定や利用マナーの呼びかけ、利用ルールの設定等の意見があげられました。これらの意見をふまえ、生徒会執行部では SNS の利用に関して、3つのルールを設定して、全校生徒に提案しました。

そのルールとは、1、送信または情報を発信するときは必ず読み直します。2、フィルタリング機能をつけます。3、夜10時から、翌朝6時の間は SNS やメールを利用しません。の3つです。

今後この3つのルールを全校生徒一人一人が、守れているかどうか振り返ってもらう予定です。

○横手清陵学院中学校 寺田優子

以上が今年度の横手清陵学院中学校の主な活動です。

「いじめのない快適な学校生活の創造」を目指して様々な活動に取り組んできました。これからもルールやマナーの確認を徹底し、全校生徒がお互いに認め合うことを忘れずに生活をしていけるよう頑張ってもらいたいと思います。そして、地域の皆さまからも「清陵中生は仲が良い」という印象をもっていただけるように、活動を継続していきたいと思っています。以上で横手清陵学院中学校の報告を終わります。

○齋藤光司 議長

ただ今から横手清陵学院中学校の報告に対する質疑を行います。通告により5番、青山豊議員に発言を許可いたします。5番、青山豊議員。

○5番 青山豊 議員

大トリに相応しい報告をしていただきました。ありがとうございます。私からは1点、いま報告のあった「清陵イノベーションプロジェクト」いじめのない快適な学校生活の創造について質問します。いじめというのは、大人の社会を含めて永遠の課題です。いまこの議場にいる多くの大人も過去において多かれ少なかれ、また色々な意味でいじめというものに関わっていると私は思います。いじめた人、いじめられた人、そして見て見ぬふりをした人。私も例外ではありません。中学校の時、同じ部活のチームメイトを数人で、暗い用具室の中に閉じ込めた事がありました。私たちにとっては単なる悪ふざけのつもりでしたが、その用具室から出てきた時の彼は泣いていました。彼にとっては、いじめだったんですね。彼には成人式の日、謝りましたけれども、けれども実はまだ夢に出てくるんですよ。彼が用具室から出てきた時の泣いた顔が。今も引きずっています、私は。後悔もしています。それがいじめです。とても重いんですね。今回、Y8サミットの原点である、その重いテーマに皆さんが真摯に向き合った事に敬意を表します。そして今のコミュニケーションツールであるSNSに着目してルールをつくり、また人間関係を重視して創快宣言を認め合いに結びつく「Praise Tree (プレイズ・ツリー)」の企画を行うなどは大変評価すべきものだと思います。さて皆さんの学校の一番の特色は、中高一貫だと私は思います。1つの校舎に高校生と中学生が互いに学び合っています。皆さんの先輩、つまり高校生もいじめというものを経験し、それに向き合っていると思います。いま皆さんは、その高校生の先輩と文化祭や体育祭、それから合唱コンクールは高1の音楽を選択した先輩と一緒にやっているとありますが、それだけでなく、このいじめという課題を共有し、向き合っていくのでより良い学校生活を送れると思います。今年度の活動を継続しつつ、そうした新しい取り組みを進めるべきだと私は思いますが、今後の方針についてお伺いします。

○齋藤光司 議長

寺田倭子さん。

○横手清陵学院中学校 寺田倭子

お答えします。これまで中学校と高校の生徒会執行部が協力して、様々な学校行事を成功させてきま

した。今後はその協力関係を生かし、中・高合同生徒会執行部会議を開き、お互いの活動を紹介し合う場を設けたいと思っています。もしそこで、高校生徒会執行部として SNS に関する使用方法のルールがなければ、中学校生徒会で提案したこの三つのルールを基本として、高校でも SNS 利用やスマートフォン使用に関するルール決めが出来ないか考えていきたいと思っています。以上です。

○齋藤光司 議長

5 番、青山豊議員。

○5 番 青山豊 議員

高校生の先輩と一緒にやる事は得るものが多いと思いますので、是非新しい気づきを得たら Y 8 サミットの中で他の学校にも共有して行って欲しいなと思います。終わります。ありがとうございます。

○齋藤光司 議長

以上、報告第 1 号の報告を終わります。これで全ての議題が終了しました。以上をもちまして、平成 30 年 Y 8 サミット創快横手市議会を閉じます。大変、ご苦労さまででした。

午後 2 時 5 1 分 閉会

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により、ここに署名するものである。

横手市議会議長 齋 藤 光 司

横手市議会議員 高 橋 聖 悟

横手市議会議員 塩 田 勉

參考資料

平成30年
Y8サミット創快横手市議会
議案

平成30年Y8サミット創快横手市議会 議案目次

- (1) 報告第1号 横手市中学校創快宣言に基づく取組みについて 1～6ページ

報告第1号


横手市中学校創快宣言に基づく取組みについて

いじめ等を学校からなくし、快適な学校生活の創造を目指した「横手市中学校創快宣言」に基づくこれまでの取組みを別紙のとおり報告する。

平成30年11月16日 提出

横手市中学校Y8サミット

「横手市中学校創快宣言」に基づく取組み

1. 横手南中学校 

〔報告者〕 かつた りょうすけ おぼら ひろむ さとう そうた わが あやこ
勝田 涼介、小原 拓夢、佐藤 蒼太、和賀 絢子

〔報告要旨〕

1. 統合初年度、新南中宣言2018の制定

「認め合い」「磨き合い」「つながり合い」の3本柱

- ①「認め合い」 他を認め、一人一人がのびのびと個性を發揮できる南中生
- ②「磨き合い」 何事にも強い心で臨み、行動し、共に日々成長していく南中生
- ③「つながり合い」 関わりを大切に笑顔で沢山の仲間や地域との交流の輪を広げる南中生

2. 創快宣言に基づく実践

①認め合い

「ふわふわの木」を育てよう

②感謝

「1日5回ありがとうを言おう運動」

「帰りの会で、今日のキラリを発表しよう運動」

「帰りの会で、全員ハイタッチをしよう運動」

月替わりで実施

③あいさつ

「あいさつ強化月間」の設定

④つながり

- ・縦割り活動の重点化…学校行事や地域貢献活動等のボランティア活動の取組み
- ・平成29年度Y8で横手南中学校が提案した、生徒による交通安全立しよう指導を9月に実施された秋の交通安全運動で実践

2. 横手北中学校



〔報告者〕 か が や 加賀谷 ま い 麻衣、た か は し 高橋 ゆうせい 勇晴、おおさか 大坂 みさと 美聡

〔報告要旨〕

1. 認め合い、つながりを意識した北中熟議の実践

①昨年度の北中熟議の結果を受けた「人任せ」解消に向けた代議員会の活性化

- ・各委員会のつながりの充実
- ・仕事の重複の確認

②地域とのつながりを意識した「北中宣言」策定に向けた北中熟議の実施

- ・愛校心、伝統行事、発信力を3本柱とした横手北中の目指す姿の確認
- ・ふるさと、地域を意識した北中熟議

3. 増田中学校



〔報告者〕 せき 関 りょうせい 凌星、さ さ き 佐々木 あきと 晟人、おおいし 大石 ゆいこ 結子

〔報告要旨〕

1. 創快宣言に基づいた「原点に戻る活動」

①認め合い

- ・いじめの無い学校生活を送る為の「創快アンケート」

②あいさつ

- ・自分も相手も快い気持ちになる「あいさつマスター」
- ・一日のスタートを元気よく切る事ができる、朝の「挨拶運動」

③つながり

- ・「スマートカレッジ」
- ・小学生とつながることができた「小中連携挨拶運動」

④感謝

- ・真心いっぱいの感謝を伝えた「増中祭」

4. 平鹿中学校



〔報告者〕^{ふじた} 藤田 ^{まりこ} 真理子、^{おおしま} 大島 ^{みひり} 光春桜、^{もろおか} 師岡 ^{りか} 里佳

〔報告要旨〕

1. 創快宣言に基づく実践

『認め合い』『感謝』『あいさつ』『つながり』

①認め合い

- ・周りの人たちを認め合い、大切に思う気持ちを育てる
「ほっとポスト」

②感謝

- ・周りの人への感謝の気持ちを笑顔とともに届ける
「笑顔写真プロジェクト」

③あいさつ

- ・あやめグリーティングを意識して行った
「小中連携あいさつ運動」

④つながり

- ・学校祭に来てくださった地域の方とつながる機会を作った
「ほっとボード」

5. 横手明峰中学校



〔報告者〕^{たんば} 丹波 ^{ふうこ} 楓子、^{すがわら} 菅原 ^{れい} 零、^{おおた} 太田 ^{はるか} 春香

〔報告要旨〕

1. 横手明峰中学生徒活動の二本柱

- ・^{エムエイチアール} 「M H R」: ^{メイハウ} Meiho ^{ハートウォーミング} Heartwarming ^{リレーションシップ} Relationship

- … 心温まるような絆やつながりを大切にしていこうというもの
- ・「バディークラス活動」… 1年生から3年生までの縦割りにした
様々な活動

①つながり・認め合い

- ・「MHR 掲示板」
クラスや学年の壁をこえた一人一人のつながりをより強いものに

②あいさつ・つながり

- ・「MHRdays」

バディークラス毎に横手明峰中学校区の三小学校と雄物川高校での挨拶運動

③つながり・感謝

- ・「明峰祭マナーアップキャンペーン」

日頃の感謝の気持ちを実際の態度や行動で伝え、MHR を地域にも拡大

6. 十文字中学校



〔報告者〕 おがわ まさひろ すがわら ふうた ささやま ひなこ
小川 雅弘、菅原 楓太、笹山 日菜子

〔報告要旨〕

1. 創快宣言に基づく実践『認め合い』『感謝』『あいさつ』『つながり』について

①『認め合い』

十文字中生徒会が制定した「あい」宣言の実現に向けた取組み

- ・学級ごとに「あい」実現宣言を設定し、意識の向上に努めた活動
- ・生活委員会の「Mr&Miss 十中」による「あい」宣言の広める活動

②『感謝』

様々な行事を通して、地域の方々へ感謝の気持ちを伝える活動

- ・吹奏楽部による地域の祭りや老人ホームを訪問しての演奏会
- ・十中祭で、地域の方々に楽しんでもらうための「十中祭マナーアップ大作戦」

③『あいさつ』

- ・生活委員会、執行部が中心となっていく、朝のあいさつ運動

④『つながり』

- ・出身小学校の児童と一緒に地域ボランティア活動

7. 横手清陵学院中学校



[報告者] 寺田 ^{てらた} 倭子、柏谷 ^{かしわや} 眞之介、菅原 ^{すがわら} 梨瑚 ^{りこ}

[報告要旨]

1. 「清陵よりよいキズナ^{プロジェクト}project」と創快宣言に基づく実践

「認め合い」と「つながり」に重点を置いた、「いじめのない快適な学校生活の創造」のための生徒会活動の推進について

①認め合い

- ・「Praise Tree (プレイズ・ツリー)」を大きくしよう
クラスメイトの良いところや頑張りを付せんに書き、それを掲示してみんなで認め合う活動

②つながり

- ・SNS利用ルールの策定
 - (1) アンケートの実施と全校集会を開いての結果報告
 - (2) 各学級で話し合い
 - (3) 生徒会執行部で意見の集約、ルール策定